

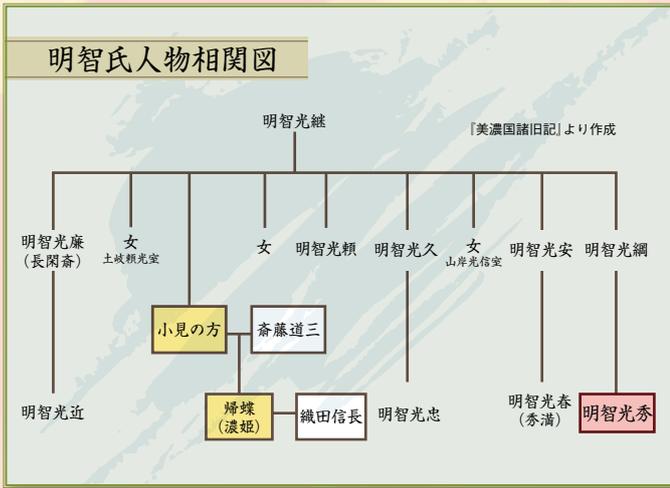
ようこそ！明智荘へ

— 天文21年(1552) —



可児市長 三の成神

「兵は詭道なり」といい、面目とし
てはそうだろう。だが私はその詭道に
興味を持ってしまふから始末に悪い。
近頃、「鉄砲」なるものが戦に使われ
ていると聞いた。京から来た商人の話
では、筒から火を吹く飛び道具だとい
う。なんでも南蛮から伝わったらしい。
ぜひ見てみたいし、できるものなら手
に入れたいと思う。



—— 申し遅れたが、私は明智光秀。享
祿元年(1528)、ここ可児郡明智
の里で生まれた。我が明智家は美濃
の名門といわれた土岐氏の末につな
り、代々明智の里を領してきた。当主
たる私はこのとおり25歳にもなるの
に、興味のあるものに魅せられて、ふ
らふらと定まらない毎日だ。

家族や一族たち。これが私の宝だ。

明智家の後継者たる私が、武術鍛錬に
執心し、諸方を歩いて見聞を広めてい
ることを良く思わない者もいる。だが、
叔父の光安殿は私に優しい。「それで
いいのだよ。お前は明智の家に納まら
ない器かも知れん」といつて下さる。

私の本心をいえば、大切な家族や一
族、領民たちを守る知恵と力が欲しい
だけなのだ。本当は戦も兵の道を究め
ることも好きではない。「鉄砲」とて、
それがこの乱世を生き抜くための、そし
て、終わらせるための詭道となるなら
ば用いざるを得ない、のだろう。

近頃、美濃国内は騒がしい。斎藤利
政様(のちに改名して斎藤道三)が主

君の土岐頼芸様を追放して以来、もは
や国を奪ったも同然などといわれてい
る。美濃統一を果たしたという事は大
きいが、一方で利政様のやり方に不満
を抱える者たちも多いと聞く。

東美濃での明智一族の立場は難し
い。土岐氏の一員でありながらも、利
政様の勢いは無視できない。我が明智
家から利政様に小見の方様が嫁いでい
ることも重要だ。小見の方様は、私に
とって叔母にあたり、帰蝶(濃姫)の
母でもある。

帰蝶は幼い頃から美しかった。私は
年々綺麗になっていく帰蝶を見守って
きた。いずれ一緒になれたら、と淡い
夢を見ていたのだが、それは夢のまま
終わってしまった。3年前に帰蝶は
「うつけ」と呼ばれる尾張の織田の若
君のところへ嫁いでいったのだから。

利政様こそ詭道の人であると思う。
近くにお仕えた際に、目的のために
は手段を選ばない、というやり方を教
えていただいた。それが非道にみえて
も、大きな目的のためには仕方のない

場合もあるのだと。
私も利政様のようにならなくては
いけないのだろうか？たとえそれが国の
平穩につながる政略であるとしても、
おのれの娘を敵方の「うつけ」に差し
出すなど、今の私にはとても真似ので
きないことだ。

—— 本稿は主に『美濃国諸旧記』を参
考に構成した「私にとって」の明智光
秀ストーリーです。謎の多い明智光
秀の人生は、数多くの物語を想像する
ことができます。これから光秀はどう
なっていくのか、8月号の続編をご期
待ください——

市の人口
5月1日現在()内は前月比

102,245人 (+167)

【男】

50,669人 (+78)

【女】

51,576人 (+89)

【世帯】

42,557世帯 (+139)